

大久保(札幌大谷中)と由本(貝塚第二)が対戦。由本の強打を大久保が何本も拾い我慢のプレーで初優勝を決めた。ベスト4には、首藤(石田卓球クラブ)、狩野(山陽女子中)が入った

2019 全日本 (カデ)

11月8~10日

優勝 大久保ひかり (札幌大谷中)

安定したプレーの大久保が優勝。相手の強打を拾いまくり、ミス誘った

Singles Girl's

準優勝

由本楓羽 (貝塚第二) 力強い両ハンド攻撃をみせ、決勝に進出

ランク 3位

首藤成美 (石田卓球クラブ) ミスが少なく早い打点での攻撃で得点を重ねた

ランク 4位

狩野琴春 (山陽女子中) 接戦に強く、気持ちの入ったプレーを披露

JOCジュニア オリンピックカップ 選手権大会 (ツトの部)

維新大晃アリーナ

Singles Boy's

中村(愛工大名電中)と芝(野田学園中)が決勝で対戦。テンポの速い連続攻撃をみせた中村がダブルスに続き2冠を達成。芝は敗れたものの恵まれた体格から威力あるボールを放った。3位は浅見(石田卓球クラブ)、赤尾(Five Stars)だった

打点が早く、連続攻撃で見事2冠を達成した

優勝 中村煌和 (愛工大名電中)

準優勝

芝拓人 (野田学園中) 地元の大応援を受け決勝進出を果たしたが、惜しくも敗れた

ランク 3位

浅見勇志 (石田卓球クラブ) 準々決勝2ゲーム先取されるも、我慢のプレーで勝利

ランク 4位

赤尾飛市朗 (Five Stars) フットワークが良く、力強いフォアハンドが光った

篠原(貝塚第二)と張本(木下グループ)が決勝で対戦。張本が圧巻のプレーで2ゲームを先取るも、篠原が3ゲーム目で果敢にラリーを仕掛け逆転勝利した。3位は伊藤(ミキハウスJSC)、吉田(さくら組ジュニア)だった

13 Under

優勝 篠原夢空 (貝塚第二) 元気いっばいのプレーで優勝。思い切りのよい両ハンド攻撃で頂きに立った

Singles Girl's

準優勝

張本美和 (木下グループ) 決勝では2ゲーム先取るもあと一步のところで敗れた

ランク 3位

伊藤詩菜 (ミキハウスJSC) コース取りが良く、チャンスボールを確実に仕留めた

ランク 4位

吉田一葉 (さくら組ジュニア) 粘り強くボールを拾い、準々決勝はフルゲームを制した

Singles Boy's

オールラウンダーの坂井(愛工大名電中)が嬉しい初優勝。準優勝は薛(河北台中)。変化の分かりづらいサービスからの果敢な攻めをみせた。ベスト4には、石井(石田卓球クラブ)、吉山(TC中原)が入った

優勝 坂井雄飛 (愛工大名電中) 安定感をみせ、初Vプレー領域が広く、丁寧な攻撃で栄冠をつかんだ

準優勝

薛大斗 (河北台中) 変化の分かりづらいしやがみ込みサービスから攻撃につなげた

ランク 3位

石井佑季 (石田卓球クラブ) 恵まれた体格から破壊力のある攻撃を仕掛けた

ランク 4位

吉山和希 (TC中原) 精度の高いプレーをみせ、準々決勝フルゲームを制した

2019 JOCジュニア
オリンピックカップ
全日本選手権大会
(カデットの部)

11月8~10日 維新大晃アリーナ

男子ダブルスは、中村煌和・菅沼翔太(愛工大名電中)と芝拓人・岩井田雄斗(野田学園中)が決勝で対戦。中村・菅沼がコースを突く攻撃でチャンスを作り確実に得点を重ね、優勝を決めた。敗れた芝・岩井田は地元の大声援を受けるも、念願の優勝まであと一歩だった。3位は、石井・久保(石田卓球クラブ)、萩原・加山(愛工大名電中)だった。

Doubles Boy's

優勝 中村煌和^⑤・菅沼翔太
(愛工大名電中)

コース取りが良く、
ラリー戦にも強さを
みせた



萩原啓至^⑤・加山雅基
(愛工大名電中)

ランク
4位

コンビネーションが良く息の合った攻撃が光った



石井佑季^⑥・久保賢輔
(石田卓球クラブ)

ランク
3位

威力ある両ハンド攻撃を連続で仕掛けた



芝拓人^⑤・岩井田雄斗(野田学園中)

準優勝

台上から積極的な攻撃で先手を取った



Doubles Girl's

女子ダブルスは、首藤成美・小塩悠菜(石田卓球クラブ)が嬉しい初優勝。サービスからの連続攻撃で1ゲームも落とすことなく、完全優勝を達成した。準優勝は篠原夢空・上澤杏音(貝塚第二)。つなぐボールと決めに行くボールの判断が良かった。3位には、栗山・兼吉(ミキハウスJSC)、竹山・山本(同)が入った。

優勝 首藤成美^⑤・小塩悠菜
(石田卓球クラブ)

サービスからの連続攻撃で
1ゲームも落とさず優勝



竹山紗矢^⑤・山本真愛
(ミキハウスJSC)

ランク
4位

気持ちがこもったプレーで、ベスト8決定戦ではフルゲームを制した



栗山優菜^⑤・兼吉優花
(ミキハウスJSC)

ランク
3位

左利きとカットマンのペアで粘り強くラリーした



篠原夢空^⑤・上澤杏音(貝塚第二)

準優勝

ミスが少なく安定感のあるプレーをみせた